

# Z世代の就職観。

先生に聞く 新卒者が求める企業とは



明星大学経済学部 特任教授

波田野 匡章 氏

自分の描いていたイメージと違ったとあって、せっかく入った会社を離職してしまう学生が多い昨今、地元企業や自治体の協力を得て「体験教育」を実践し、グループワークやプロジェクト活動などを通じて企業と学生のコミュニケーションを大事にしている明星大学。自身を「世話好きなおっさん」と称し、学生のキャリア開発、就職活動の後押しをする経済学部の波田野匡章特任教授に、最近の学生の特徴を踏まえた「就職観」「企業と学生の関係性」について聞いた。

## 「見合い型」から「恋愛型」に

「最近の就職活動の傾向は。」

「Z世代型雇用の流れの中で、インターンシップを職種別に行う企業も少なくない。2年生や3年生の時期に志望職種が絞り込めている学生は少なく、戸惑う姿が見られる。個人的には、就職活

「学生時代に力を入れたことは何ですか」との企業からの質問に、コロナ禍の影響もあり、自分は何に力を入れたのか？と悩む学生が多い。短期間の取り組みでも構わないので、身に付いたこと、学んだと自分自身が思えることを答えれば良いと

少ないので、失敗に対して臆病で、結果が見えないものに対してなかなか一歩を踏み出したがらない。だからこそ、背中を軽く押すことが重要になる。一度リスクテイクして成功すると行動が加速する」

「体験教育とは。」

「学生時代に力を入れたこと」を数多く成立させたい」企業側への要望は。「最近の学生は真面目な反面、自分を前面に出してコミュニケーションを取ることはあまり得意ではない。自分の言動に対する相手の反応をうかがいながら立ち止まってしまうので、正面から向き合えるコミュニケーションの場を提供することが大切。学生に行動を求めることも必要だが、企業側がイニシアチブをとって自社の説明や社員の紹介を行ったほうが良い。誤解を恐れずに言えば、会社説明会は「合コン、街コン」に参加するようなスタンスで学生に向き合うことが大切だ」

動を通じて、興味のある分野を見つけていけば良いと考えている。さらに言うと、仕事を通じて「自分は何ができるのか」「何をしたいのか」を認識していくものだと思っ

「就職活動で「ガクチカ」といわれている、

「就職活動で「ガクチカ」といわれている、

「就職活動で「ガクチカ」といわれている、

「就職活動で「ガクチカ」といわれている、

「就職活動で「ガクチカ」といわれている、

「就職活動で「ガクチカ」といわれている、

（多摩支局・下山武彦）